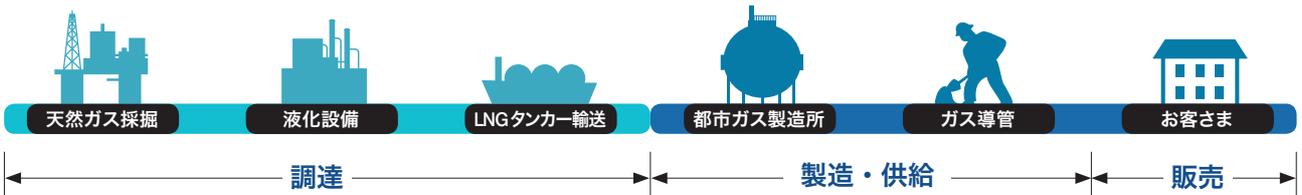


# 日本のガス事業者の特徴

島国日本で事業を展開するガス事業者は、欧米各国のガス事業者には見られない特徴を有しています。

## 1 ガスの調達・製造・供給・販売までサプライチェーンに沿った一貫経営

ガス事業者は、欧米では、ガス事業が輸入・生産、輸送、販売などの事業会社にそれぞれ分断されているのに対し、日本では分断されずに一貫した経営となっています。



**日本のガス事業者** 輸入から販売まで一貫経営



\* 大阪ガスをはじめ、一部の事業者はガス田権益の取得などにも取り組んでいます。

**欧米のガス事業者** 各機能を独立した企業が経営

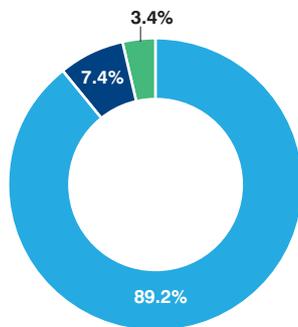


## 2 原料の大半をLNGで輸入

現在、日本で生産される天然ガスはそれほど多くなく、また日本には国際パイプラインがないため、原料の大半をLNGで輸入しています。

都市ガスの原料別内訳 (2011年3月期)

- LNG
- 国産ガス
- その他



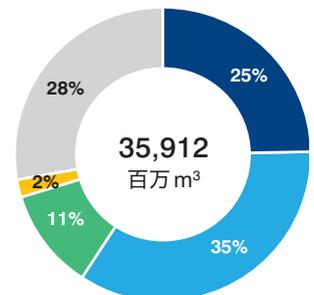
出典：(社)日本ガス協会ホームページ

## 3 大手数社で国内ガス販売量のシェアの大半を占めている

日本のガス会社は全国で209社にのぼりますが、そのうち大手4社のガス販売シェアが7割に達しています。

ガス販売量 (2012年3月期)

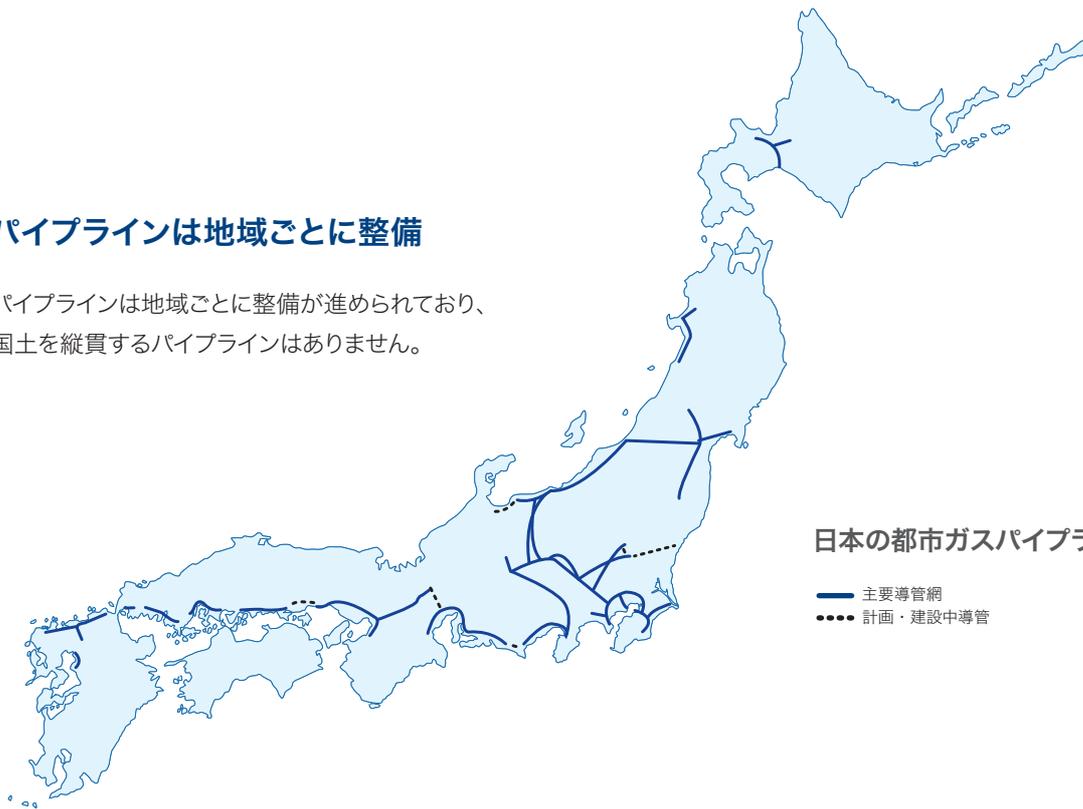
- 大阪ガス
- 東京ガス
- 東邦ガス
- 西部ガス
- その他



注：このグラフは41.8605MJ/m³で表示しています。  
出典：(社)日本ガス協会「都市ガス販売量実績」

## 4 パイプラインは地域ごとに整備

パイプラインは地域ごとに整備が進められており、国土を縦貫するパイプラインはありません。



日本の都市ガスパイプライン網

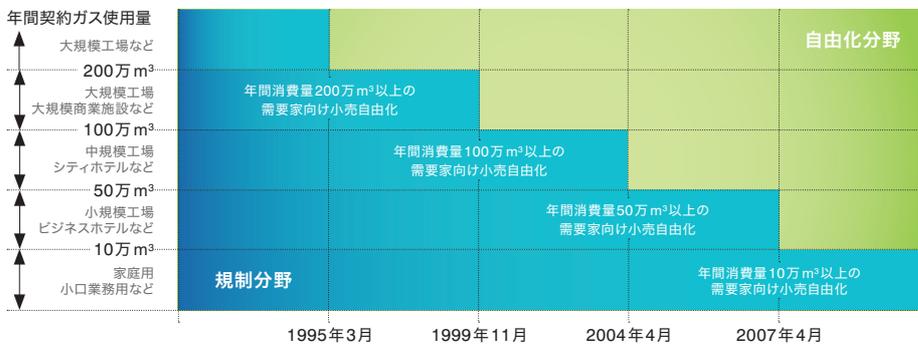
— 主要導管網  
 ..... 計画・建設中導管

## 5 段階的な規制緩和と原料費調整制度

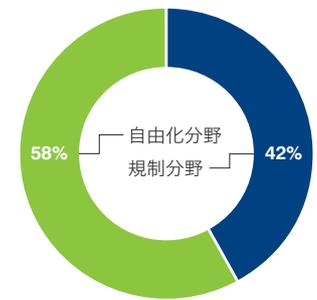
### 規制緩和

1995年に初めて小売の自由化が導入されて以降、徐々に自由化の範囲を拡大する形で規制緩和が進められてきています。

### ガス小売自由化の変遷



### 販売量構成 (2012年3月期)



### 原料費調整制度

原料であるLNGの調達価格は為替レートや原油価格の動きによって変動します。ガス料金には、こうした外部要因を反映させる仕組みが採り入れられており、これを「原料費調整制度」と呼んでいます。原料費調整制度により、原料費の変動がガス料金に反映されるまでには時間差が生じるため、単年度の業績を考慮した場合には、ガス会社の収支は原料費の変動による影響を受けることとなりますが、中長期的な影響は中立です。

### 原料費調整制度

